

2016年4月23年付エル・ペリオディコ紙
「日本政府及び世銀はウツ・チェ・プロジェクトを支援」
(仮訳)



写真左より：エリアス・ライムンド当国農業科学技術庁(ICTA)ゼネラルマネージャー，ニコラス・レジェス・ガルシア当国森林団体 Utz Che'副代表，川原英一日本国大使，マリオ・エストゥアルド・メンデス当国農牧食糧大臣，メリー・リスベス・ゴンサレス世銀本プロジェクト担当マネージャー，ホセ・ロベルト・チャバリア Utz・アグロフォレストリー・プロジェクト専門家

(4月13日)，日本社会開発基金(JSDF)による270万米ドル相当の食糧安全及び気候変動対策に関するプロジェクト（世銀及び当国地域森林団体 Utz Che'が共同管理）の最終報告書発表会が当地バルセロ・ホテルで行われた。

2013年に開始され本年5月に終了予定の本プロジェクトは，地域住民と共に気候変動に対する適応力を持続可能且つ低コストで養うことを主な目的と位置づけていた。本プロジェクト・サイトでは地方経済において非常に重要な作物であるトウモロコシ，フリホーレス，キャッサバ，サツマイモ，コーヒー及び料理用バナナの収穫量が増加した。

本プロジェクトは旱魃による甚大な被害や気候変動による影響に対応する為に低コストのテクノロジーを用いた革新的且つ包括的な方法を用いた。また、重力式点滴灌漑，雨水貯留や効率的な太陽光発電を利用した混合アグロフォレストリー・システムにも取り組んだ。